

法政大学出版局○新刊のご案内

2025年8月14日

通巻 363-1 号

- ① 配本希望部数をご記入のうえFAXにてご連絡をお願いいたします。
希望部数を優先して配本しておりますので、ぜひお申し込み下さい。
- ② 委託期間内返品可 配本後到着の注文書は注文扱いで出荷させて頂きます。
- ③ ★印の図書は特にご注目下さい。平積み頂ければ幸甚です。
- ④ 小局ホームページより、「新刊のご案内」最新号がダウンロードできます。

新刊委託

| | | |
|----|--|---|
| 部数 | 法政大学出版局 2025年9月25日配本 定価4620円(本体4200円+税) バーナード・E・ハーコート著／向山恭一 訳 革命を鎮圧せよ アメリカが市民に仕掛けた戦争 ★★ 9・11後、アメリカはイラク、アフガニスタンで戦闘を繰り広げてきた。「敵」と一般住民の境界はあいまいになり、不信感を広げた。そして、いまや戦争は国内に移った。標的とされるのは戦地の住民ではなく自国民だ。デジタル監視社会化が進み、市民は丸裸にされ、疑わしき人が狩り出される。アメリカの政治は戦争の延長線上に位置づけられ、新しい統治=「反革命」が生まれた。これからの社会を考えるための必読書。 ☆関連書:シャマユー『ドローンの哲学』明石書店、シンプソン『21世紀の戦争と政治』みすず書房、など。 | 四六判上製・344頁 『サビエンティア 78』 ISBN978-4-588-60378-5 C3031 【アメリカ政治】 |
|----|--|---|

新刊委託

| | | |
|----|---|--|
| 部数 | 法政大学出版局 2025年9月25日配本 定価5500円(本体5000円+税) 安井絢子 著 〈ケアの倫理〉の哲学 実践のための理論研究 1980年代にキャロル・ギリганが提唱して以降、さまざまな学問領域の論者たちによって議論が重ねられている「ケアの倫理」。本書はその理論面に焦点を当てて、来るべき「ケアの哲学」を支える基礎理論の構築を目指すとともに、ケアの倫理が理論研究にとどまらず「実践者の倫理」であることを力強く描き出す。従来の倫理学が取りこぼしてきたものを発見し、これまでの知の枠組みを問い合わせ直す、野心的な試み。 ☆関連書:キャロル・ギリган『もうひとつの声で』(三元社)、アネット・バイアー『心が共有しているもの』(小局刊)ほか。 | A5判上製・384頁 ISBN978-4-588-15145-3 C3010 【哲学・思想】 |
|----|---|--|

新刊委託

| | | |
|----|---|--|
| 部数 | 法政大学出版局 2025年9月30日配本 定価5720円(本体5200円+税) 長島皓平 著 絶対的内在とアナーキー ジョルジオ・アガンベンの政治哲学 『ホモ・サケル』から『王国と榮光』を経て『身体の使用』まで、政治神学への取り組みを通じて変化する中で、脱構成として示される絶対的内在のアナーキーの肯定を提起するに至ったアガンベンの政治哲学。資本主義や民主主義といった具体的な論点に照らし、さらにはフーコー、ドゥルーズ、デリダ、シュミット、バトラーなどとの差異も検討して、この哲学者の思想の重要性を明らかにする。 ☆関連書:アバンスール『国家に抗するデモクラシー』、ロゴサンスキー『政治的身体とその〈残りもの〉』ほか(小局刊)。 | A5判上製・398頁 ISBN978-4-588-15144-6 C1010 【哲学・思想】 |
|----|---|--|

新刊委託

| | | |
|----|--|--|
| 部数 | 法政大学出版局 2025年10月9日配本 定価4180円(本体3800円+税) 酒井 健 著 バタイユとアナーキズム アナーキーな、あまりにアナーキーな ★★ バタイユ、三島由紀夫、ボードレール、カ夫カ、キルケゴール、バクーニン……。絶対的なものの支配に従わない人間の生き方を模索した思想家たち。アナーキーな情念に憑かれた彼らの核なる部分に潜り込み、近代の支配原理や現代社会の閉塞を突き破る根源的な自由への渴望、無益な生の輝き、すなわち「生きる理由」を剔り出す。大好評を博したnote連載を加筆・増補して、待望の書籍化! 徹底的に否定せよ、どこまでも否定せよ! ☆関連書:『はじまりのバタイユ』(小局刊)、酒井健『増補 シュルレアリズム』(ちくま学芸文庫)ほか。 | 四六判上製・384頁 ISBN978-4-588-13045-8 C0010 【哲学・思想】 |
|----|--|--|

新刊委託

| | | |
|----|---|---|
| 部数 | 法政大学出版局 2025年10月24日配本 定価3960円(本体3600円+税) クレール・マラン 著／藤澤秀平 訳 はじまり どこからまたはじめるのか(仮) ★ 「うんざりして、嫌になることもある。(…)それでも、朝の輝きを、再開のあたらしい光を決して忘れない」。わたしたちの物語の尽きることのない源である「はじまり」は、誕生から死まで、その度毎に更新され、その人の物語に節目を記しづける。なぜ「また」はじめるのか、どこまでやり直すのか。人びとの苦悩と喜びの機微を読み解き、あらたな「はじまり」を提示する哲学的試み。 ☆関連書:マラン『断絶』、『病い、内なる破局』、『熱のない人間』、マラブー『偶発事の存在論』ほか(小局刊)。 | 四六判上製・238頁 『叢書・ウニベルシタス 1189』 ISBN978-4-588-01189-4 C0310 【哲学・思想】 |
|----|---|---|

ご担当者様 氏名 : []

担当ジャンル : []

TEL : []

【お願い】

配本の際、ご担当者様の記名が必要となりました。
ご面倒とは存じますが、ご担当者様欄のご記入をお願い申し上げます。

法政大学出版局

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-3

Tel. 03-5214-5540 E-mail: sales@h-up.com URL: https://www.h-up.com/

Fax. 03-5214-5542